

# 国境を越えるコーポラティズム

## 在外ネパール人協会(Non-Resident Nepali Association)とネパール

上杉妙子 (専修大学)

本発表は、市民社会の越境的動態の一側面を明らかにするために、移民の越境市民社会と出身国との関係について検討する政治人類学的試みである。ここでいう越境市民社会とは、家族などの私的領域と国家の間に地理的国境を越えて存する社会的領域であり、そこでは礼儀や気遣い、公共心等々の社会的価値が生産されるが、利益追及を主たる目的とする活動はなされない。市民社会研究では特定の自発的団体に焦点を当てて市民社会の動態を具体的に明らかにしようとするものが多い。本発表でも、移民の自発的団体である在外ネパール人協会(Non-resident Nepali Society, NRNA)を取り上げ、ネパール政府との関係について考える。

国内の市民社会と国家との関係や民主主義的体制において市民社会が果たす役割についての議論には、二つの立場がある。一つは、市民社会の様々な組織がせめぎ合うことが民主主義体制の維持に貢献すると見る、トクヴィル的な立場である。もう一つは、国家は、国民に対して優越する立場を確固たるものとするために、市民社会の組織を国家組織の中に組み込むとするグラムシ的な立場である。では、越境市民社会と国家の関係はどのようなものとなるのであろうか。

本発表ではまず、NRNAの組織と活動について概略を述べる。次いで、ネパール政府との関係について述べる。特に、NRNAによる二重国籍法制化運動を取り上げ、その背景と動機、政府との交渉の経過を明かにする。

結論として、以下のことを指摘する予定である。

第一に、NRNAは、越境市民社会の団体である。それは出身民族／カーストを問わずネパール系移民から構成される自発的団体であり、かつ、国家組織ではない。NRNAの組織は単一の国の領土の内部に止まるものではなく、活動も地理的国境を越えてなされる。NRNAの内部では社交的関係を通じて互助や公共心、気前の良さ、遠距離ナショナリズム等の社会的価値が生産されている。

第二に、NRNAとネパールの間にはコーポラティズム的関係が国境を越えて構築されている。コーポラティズムとは、「主要な社会集団ないし利益集団（労組、企業、農民団体、軍事組織、民族、クラン、各種支援団体(patronage)、氏族、宗教団体、カースト団体など）が、国家の発展を協調的に達成するために、独占的基盤の上に、ないし国家の指導と統制のもとに、統治システムに統合されるシステム」(Wiarda 2015(1997): ix)である。NRNAはネパール系移民団体としては最大であり、政府との

交渉窓口を独占的に保持している。また、ネパール政府の各種諮問委員会に参加するなど、その活動の一部は統治システムに統合されている。さらに、NRNAは政府による監督を受け入れるなど、政府の指導・統制のもとにある。

第三に、コーポラティズム的な関係はネパール国内の市民団体と政府との関係にも見られるが、NRNAと政府との関係には、国内コーポラティズムには見られない特色がある。それは、ネパール政府がNRNAに対して優越した立場にあり、両者の権利義務関係は概ね片務的であるということである。国内に居住するネパール国民により構成される団体であるならば、ロビーイングや選挙における投票、街頭デモなど複数の手段を取って政府に圧力を加えることができる。しかし、移出民には、ネパール国籍の有無にかかわらず政治的権利が事実上ないため投票することができず、また、ネパールに居住していないため頻繁に街頭デモを行うことも困難である。そのため、NRNAはロビーイングなど限られた手法を取って政府と交渉することを余儀なくされている。さらに政府は、移出民の政治的権利の制限について説明する際に「外国の脅威」という概念を核とする言説を駆使しており、遠距離ナショナリズムにより統合されているNRNAは政府に譲歩せざるを得ない。NRNAとネパール政府のコーポラティズム的な関係には、トクヴィル的な見方よりもグラムシ的な見方がよりあてはまると言えよう。議会制民主主義による意思決定の外側にあるコーポラティズムのそれは不可視のものとなりがちであり、コーポラティズムと議会制民主主義との並存は「二重権力構造」(Wiarda(2015[1997]: 121)につながりかねないことが指摘されている。しかし、それは国内の団体であることを前提した話であり、越境市民社会団体も併せてみると、「二重権力構造」はより複雑な様相を呈する。

以上、述べたように、市民社会と国家の関係は関係の越境性や人々の政治的権利の有無により異なると考えられる。今日の市民社会と国家の関係について論じるためには、越境市民社会にも注意を払う必要がある。

\* Wiarda, H. J. 2015(1997) *Corporatism and Comparative Politics: The Other Great "Ism,"* London: Routledge

\* 本発表は平成 27 年～平成 30 年科学研究費基盤研究 (C) (一般) (研究課題名: 「多重国籍・市民権とアジアの市民社会の越境的動態に関する文化人類学的研究」、研究代表者: 上杉妙子専修大学文学部兼任講師、研究課題番号: 15K03054) の成果発表の一環として行われるものである。

キーワード 越境市民社会、越境コーポラティズム、国家、移民、在外ネパール人協会